

令和6年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（ 豊岡市立豊岡南中学校 ） 校長名（ ）

1 学校教育目標

「新たな時代を担う 心豊かな生徒の育成」

2 学校教育推進の視点

①安全・安心な南中に ②学習が充実した南中に ③心の通い合う南中に
④地域に根ざした南中に

3 総合的な自己評価

・目指す学校像として「生徒も職員も登校することを楽しみに思える学校づくり」を継続して進めてきた成果が現れた。学校評価アンケートでは、『学校に行くことが楽しい』と思っている生徒の割合（87.6%）、『子どもは楽しく学校に通っている』と思っている保護者の割合（92.5%）、『楽しみに思える学校になっている』と思っている教職員の割合（83.2%）」という回答を得た。また、全国学力学習状況調査の生徒質問紙でも「先生は、自分の良いところを認めてくれている」と思っている生徒の割合は94.7%であった。引き続き、生徒たちとの肯定的なかかわりを徹底し、「自己肯定感」「自己有用感」を高める指導を重視していく。

・不登校生徒数の割合は依然として高い状態であるが、生徒たちが安心できる居場所づくりに向け、生徒一人一人の実態に寄り添った支援体制の構築に努めた。これからもスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関等と連携し、その生徒に合った支援策を講じていく。

・勤務時間の適正化に向け、本年度、「保護者連絡ツール tetoru」「採点システム『百問繚乱』」等を導入し、業務の効率化を図った。これからも教職員一人一人が充実感を感じながら働ける職場環境づくりに向け、ワーク・ライフ・バランスを推進していきたい。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策	自己評価の妥当性
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	探求的で深い学びを意識した指導法を工夫している	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業では「ローテーション授業」を行うことで、教職員同士で教材について学び合い、授業実践力を高めることができた。 ・家庭学習について、教職員と生徒との意識の差を検証していく。（宿題を忘れずにしていると回答している生徒の割合は81.7%であった） ・生徒が主体となった取組（生徒会、学校行事等）を大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習（宿題）については、家庭との連携が必要である。 ・中間テストがなくなったことによる生徒たちの学習の機会、学習到達度等の検証をしていただきたい。 ・少しずつ改善はされているが、できるだけ多くの生徒にボランティア活動を実施していただきたい。 ・勤務時間の適正化に向け、スケジュール等、段取りよく計画・周知していく必要がある。 ・小中一貫教育において来年度から「豊岡南中ブロック」となる。保護者や地域と協力しながら目指す子ども像を策定していただきたい。 ・生徒の自己肯定感・自己有用感を大切にした指導がされている。（良いことを認めてもらえるとの回答91.2%） ・生徒対応について、関係機関と連携した支援体制、教職員間での情報共有により適切な対応ができています。 ・あいさつの評価については、声の大きさなど個人差があるので、個々に応じた対応が必要である。 ・ふるさと教育において「豊岡のよさ」を学ぶ中で、生徒たちが住んでいる地域と連携した取組を進めてほしい。 ・防災教育については、昨今の災害の状況から不可欠であり、防災に対する体験的な活動を設定する必要がある。 ・全体的に今の時代に合った取組（評価）がされている。（校則の見直し、連絡ツール、採点システムの導入等）
	・ 道徳教育	全教育活動の中での道徳性の育成が図られている	A		
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に育成している	B		
	・ 総合的な学習の時間	指導計画に基づいた指導を行い、評価方法を工夫改善している	B		
	・ 特別活動	生徒会活動や学校行事において、生徒の自治能力を高めている	B		
学校運営	・ 開かれた学校づくり	教育方針や学校・学年・学級の様子を分かりやすく伝えている	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校長が掲げた教育方針について、共通理解が図られている。取組について、学校だより・学年通信等で保護者に発信し、理解を得ていく。 ・小中一貫教育の取組が、中一ギャップ解消に向け効果的に行われている。（有効に機能82.5%）次年度、南中校区での組織、取組を検討していく。 ・生徒対応について、教職員間での情報共有・支援体制が確立されている。 ・全教職員による安全管理を（修繕ができて85.2%）徹底する。 	
	・ 勤務時間の適正化	勤務時間の適正化に向けて取り組んでいる	B		
	・ 引継ぎ連携システムの強化	小学校からの情報を有効に活用するなど、連携が機能している	A		
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	問題行動の未然防止や早期発見、早期対応に心がけている	A		
	・ 職員研修の推進	研修の計画、推進体制、進め方が適切である	B		
	・ 危機管理体制の整備	実効性のある学校マニュアルの見直しを進めている	A		
課題教育	・ 非認知能力の向上	非認知能力を向上させる取組を行っている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと教育を「南中クエスト（探求学習）」に取り入れ、地域の人と関わりながら、3年間を見据え計画的に学習を進めていく。 ・コミュニケーション教育については、どの教科も意識して取り入れることが定着してきており、一定の成果（81.5%）を上げている。 ・予告なしの避難訓練、阪神淡路大震災メモリアル授業（校長の震災での経験談）等を実施し、教職員の84%が適切に行われていると回答している。次年度は校区が広がるので、避難場所等について確認をしていく。 ・眠育やSNSによる健康被害等については、「ほけんだより」や掲示物等で生徒、保護者に発信することで、共に取り組んでいる。 ・1日30分以上読書をする生徒の割合が、過去最高値であった（29.4%）引き続き、ビブリオトーク等を取り入れた読書活動を推進していく。 	
	・ ふるさと教育	生徒に豊岡の良さを学ばせる取組を行っている	B		
	・ コミュニケーション教育	自分の考えを主張し、他者の考えを理解する場面を設定している	A		
	・ キャリア教育	生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて進んで行く力を育成している	B		
	・ 人権教育	教科・道徳・総合等、全領域で人権尊重の精神の育成が図られている	B		
	・ 特別支援教育	生徒個々の課題を明確にした指導計画を作成し、実践されている	B		
	・ 環境教育	教科・道徳・総合等、各領域で環境教育への取組を進めている	B		
	・ 安全教育・防災教育	避難訓練や交通安全教育が適切に行われている。	A		
	・ 健康教育・食育	眠育を含め、望ましい生活習慣の育成を図る取組を進めている	A		
	・ 読書活動	読書活動を推奨し、生徒の読書活動の向上に努めている	B		

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

・保護者アンケートでは項目を設定し、学年ごとに意見を聴くことができています。

・職員による評価は項目が多い。（ただし、部活動については細分化してもいいように思う）

・職員による評価はポイント評価だけでなく、具体的な%を表記したものを示してほしい。

6 総合的な外部評価

・校長が掲げた学校経営理念が職員に周知され、「南中でよかった」と思える南中の教育が創られ、浸透している。

・教職員同士で互いの「よさ」を共有し実践している。課題もあるだろうが、時代に合った南中に向かっていく。

・学習・生活面において先生が生徒たちに向き合っている。今後も安心・安全な学校生活が送れるよう取組んでほしい。

・生徒、保護者、教職員が意見を言える事は風通しの良い組織なので、今後も開かれた学校づくりを目指してほしい。

- ※ 各教科、領域、行事等に「体験活動」を積極的に取り入れ、教育活動の充実に努める。
- ※ 上記の評価の観点は一統とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。
- ※ 評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。